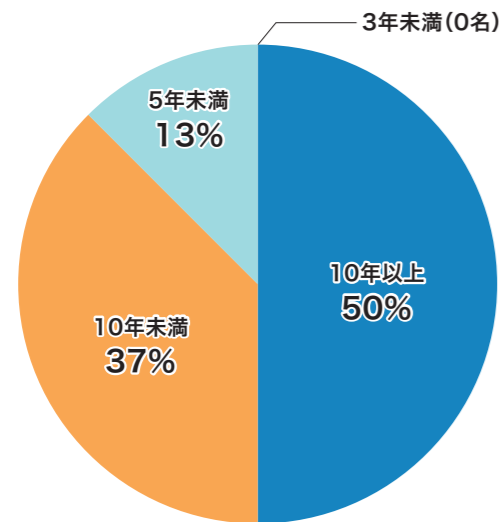


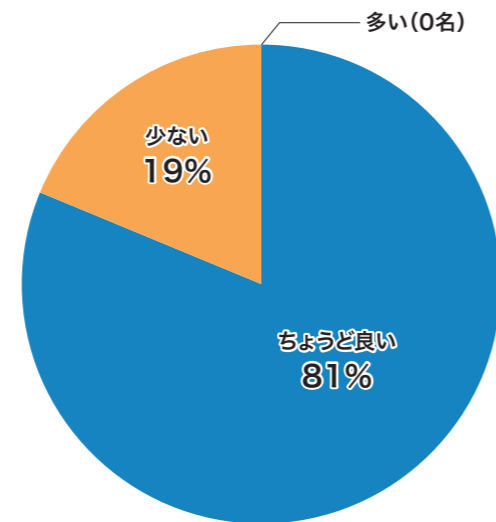
IV アンケートまとめ

■ 参加園アンケート(アンケート回答数:16名)

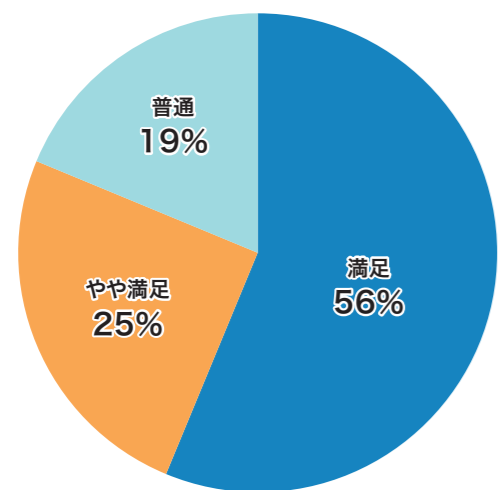
1. 保育士としての就業年数はどのくらいですか。
【通算就業年数(他施設での就業年数を含む。)]



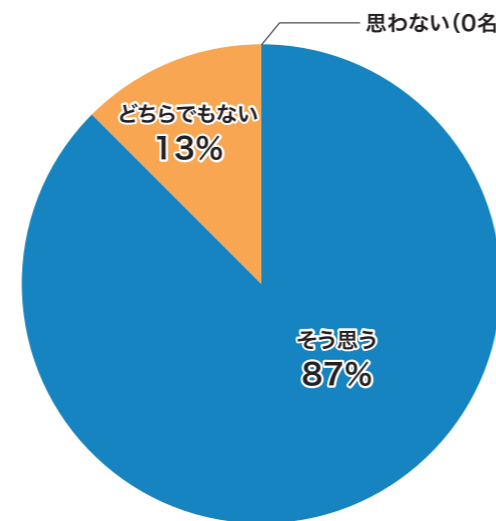
2. アドバイザー派遣の実施回数はどうでしたか。
【活動同行(3回)]



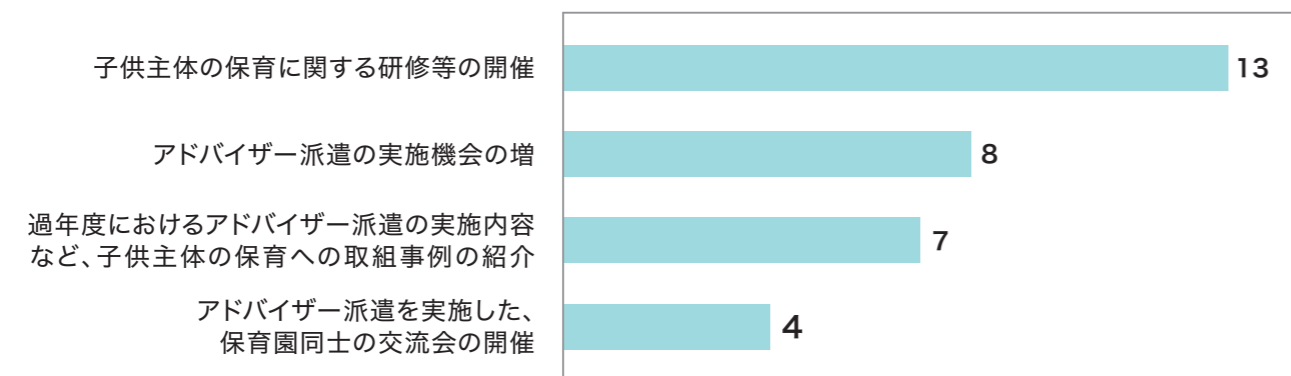
3. アドバイザー派遣事業に参加した満足度はどのくらいですか。



4. また機会があれば、アドバイザー派遣事業に参加したいと思いますか。



5. 本事業に関して行政へ要望することをお聞かせください。(※複数回答)



■ 参加園アンケート(自由記述(抜粋))

6. アドバイザー派遣参加前は、「子供主体の保育」について、どのように意識していましたか。

- 本園は在籍園児数が多く、子供達が日々怪我をせずに、安全に過ごす事が優先なので、子供達の意見を受け入れながら進めていく主体保育は難しいという意識の職員が多かった。
- 主体性保育=自由保育という概念が強かった。
- 子供主体の保育を念頭において保育を行っているつもりだったが、自分の考えであっているのか不安だった。
- 主体性保育という言葉は知っていたが、どういう保育をしていくのかはあまり理解がなかった。
- 一言で子供主体と言っても我が園では保育者各々の思いがあり、園として軸となる考えがみえていなかった。

7. アドバイザーからの助言を受けて、保育者自身や保育園が変化した、変化しなかったと感じた点

- 子供の声を聴き、様子を細かく観察することで、子供が今何を求めているかを感じ取り、子供と共に遊びを面白がるのが大事と学んだ。子供主体の保育は、ただ見守り自由に遊ばせることではないとも気付いた。
- 以前より子供を信じたり子供の可能性を広げていけるような関わりをしていけるようになった。子供が遊びこんだら保育士は一步引くことで視野が広がり、子供の色々な場面や気持ちが見えるようになった。
- 子供がやりたい事をやりたいようにさせてあげるのではなく、ある程度のルールや約束事を決め、安心・安全な環境の中で保育するという事を再確認した。
- 子供を主体に活動する中にも制限する線引きや何を経験をさせたいかといった目的をしっかりと持った上で保育をすることが大切と考えるようになった。
- 子供たちの様子をよく見て待てるようになった。子供たちが考え、気づけるような言葉がけが増えた

8. アドバイザー派遣後の子供たちの変化について

- 大人が、子供の声に耳を傾けることで、子供たちからの発信が増えてきている。大人の指示を待っていた子供たちも多かったが、自ら面白いことを見つけて、遊ぶ姿も出てきているように思う。
- 今までは保育士が興味をひいたり気になるものを見つけたりしていたが、子供との距離感を意識するようになったことで子供が自ら見つけ遊ぶようになるとともに、子供同士で興味や関心を共有する姿が増えた。
- 子供達はのびのびと自分の思いを発揮したり、遊びに集中したりする姿が多く見られるようになってきている。それによって子供達の満足感が高まり、心が落ち着いているように感じる。
- 自分のことは自分で行おうとする姿が多く見られるようになったように感じる。
- 遊具のない自然の中での子供たちの生き生きとした姿が見られるようになった。保育者が何でも伝えたり、教えたりせず、どうしたらいいと思う?と問いかけることで子供自身が考えるようになってきている

9. 子供主体の保育を今後進めていく上で、感じている難しさや工夫が必要な点について

- 子供が自ら考えて動くように促したり見守ったりしていきたいが、イヤイヤ期の子供や少し配慮の必要な子供に対する関りが難しい。ある程度、曲げない部分は必要であるが、そこが伝わらない時がある。
- 子供との距離感はまだ不安な場面もある。集団生活の中で子供の思いをどこまで受け止めていくかの線引きも園で統一していく必要がある。
- 少人数だからこそ一人一人に手厚く関わっていこうと思っていたが、子供の可能性を潰さないようにしながら援助していくことに工夫が必要と感じている。
- 子供主体で遊びを展開し見守る中で、危険な遊び方だと感じるがあった。主体性を大切にしつつも危ないことをしているときは、しっかりと声をかけ、注意することも大切だと学んだ。

V アドバイザー考察

1. 本事業への取組方針

自然環境を活用した子供主体の保育の普及促進を目指した。各園ならではの取り組みを一緒に検討し、自然環境だけでなく室内保育等、日々の保育実践にもつながる視点等を学ぶ機会となるよう努めた。

2. アドバイザーの意図

保育の伴走者として、参加園の保育者と同じ目線で一緒により良い活動を考えていった。

ファシリテーターとして、保育者一人一人の気づきを引き出し、個々の視点をまとめていった。また、保育者間の視点・認識の違いに気づく機会となることを意図した。また“反省”よりも“対話”から学び合うことで、次へ活かしていくための振り返りを意識した。

「子供主体の保育とは？」を突き詰めるよりも、その日の子供たちの姿から成長発達や興味関心を感じとり、次の活動や普段の保育へつなげることを意図した。

散歩中の安全管理や子供のリスクのある遊びの安全管理の視点などを意図的に伝えた。

3. 活動中に見られた子供と保育者の変化と効果

「子供の遊び方を見て、子供から学んだ」という保育者の姿があった。子供の姿を注意深く観察することで、子供が大人の想定を超えた気づきや発見、成長をしていることを知った。

スポットの補佐で入る保育者も一人の保育者として子供の姿を捉え、保育と一緒に作っていくことが大切と気づき、積極的に関わるようになった。

保育者が良かれと思って手をかけること、守ることで、子供の成長が止められ、かえってリスクが高くなっていることに気づき、子供自身の気づきを促す保育者の姿が見られた。

保育者とのごっこや固定遊具での遊びが多かった子供たちが、自然を使って自発的に遊びを作り出し、子供同士でも遊びが広がる姿が見られた。

保育者の関わりが変わり、子供たちの姿が落ち着き、子供たちからの発言が増えたようだった。

普通なら通り過ぎるようななんでもない場所で、子供たちが遊び込むようになった。

こんな質問が挙がりました



Q あの時、子供たちの自然遊びが広がっていきましたが、どんな関わりや声かけをしたのですか？

A 私の興味で縁石に赤や黄色の落ち葉を並べたことから遊びが始まりました。こんな風に保育者の興味から遊びが広がるケースが多いように思います。先生方も楽しんで！



Q 1クラスの人数が多くて、一斉保育になってしまいます。人数が多い中で、子供主体の保育をどのように進めたら良いのでしょうか。

A “保育の引き算”を考えてみると良いです。例えば、制作活動では、保育者が用意する部分を減らし、使える道具などの選択肢を増やし、子供の発想を加えやすくしてみる…というところから始めてみると良いのでは？ 日常生活でも、保育者が指示や誘導しなくても、自発的に取り組めるような保育の流れや動線に見直してみると良いと思います。



Q 園全体で子供主体を進める上で、それぞれの考え方もあり、難しさを感じています。どのように進めたらよいのでしょうか。

A まずは各クラスで試行錯誤した上で、やってみた工夫や子供たちが生き生きと自発的に活動した姿などを持ち寄り園内研修を実施してみたいかがでしょうか。その中で出てきた疑問や迷いをクラスを越えて保育者同士で話し合えるようになるといいですね。



Q 自然についてもっと知りたくなりました。どのように勉強したら良いのでしょうか。

A 先生自身が面白そうと思うことをぜひ体験してみてください。個人で楽しめるキャンプやハイキングに行ったり、自然観察会やネイチャーゲーム体験会などのプログラムに参加してみるのもいいですね。自分が楽しいと思ったことを子供に共有すると、自然体験の面白さが伝わります！



4. 本事業を通しての考察

(1) 振り返りの質について

昨年度報告書にも記載しましたが(詳細は令和4年度報告書参照)、やはり保育の振り返りが大切だと考えます。その振り返りにも様々な形があります。「やらないよりはやった方が良い」という最初の一步を踏み出し、そこから振り返りの質を向上させていくことが、保育の質の向上にもつながると考えています。振り返りによる保育の学び合いを通して、保育者間で連携し、チームで保育することが重要です。

〈振り返りの質を高めるために〉

振り返りのポイント

- ①子供の今の姿の共有 ②保育で動きにくかったところや良かったところなどを共有 ③ヒヤリハットの共有
- ※一人担任の場合は、学年毎や乳児・幼児別などで行ってもよいと思います
コツは、反省会ではなく振り返りを。楽しいと続きます!

① まずは振り返りの時間をとる

この時に陥りやすいことは…

- 伝達事項・報告程度になりがち
…もう一步深めていくために、気づいた子供の姿を共有してみる
- 子供の姿のみの共有になり時間が長くなる
…子供の姿やエピソードからの保育者の気づきをポイントを絞って話す(1~3分間と制限時間を設けるとまとめる力にもつながる)
- 保育のダメだったところ、子供のできていないところなど反省会になる
…「次はこうしよう」などみんなで案を出してみたり、迷いを共有してみる

② 振り返りから見えてくること

- 子供の遊びのストーリーや世界が見えてくる
…一人一人の保育者の断片的な関わりをつなぎ合わせることで、多角的な視点から子供の心の動きを分析し、遊びの背景や物事の捉え方が見えてくる。(参照:P30 蜘蛛に関するエピソード)
- 子供の“今”の姿を捉えられるようになる
…普段はやらないのに…、そんな姿があったの?!など違う保育者の視点から子供の意外な姿や成長が見えてくる。
- 保育者の迷いや保育の流れについて
…リスクのある遊びをする子供(参照:P6,P19,P30,P37)や集団から離れて遊ぶ子への対応(参照:P6)など、保育者の迷いを共有することで、課題解決にみんなで取り組むきっかけになる。(必ずしもその場で結論を出さなくてもOK)
…保育の流れでスムーズではなかった場面や動線が見えてくる。

③ じっくり話したいことが出てくる

- 子供の育ちやリスクマネジメント、保育計画についてなど、議題が出てくる
…まとまった時間が取れるように、園全体で調整してみる
…振り返りをしながら日誌等を書いておいたりし、保育計画に反映していく

④ 学びのサイクルが回り始め、質の高い保育へ

- 振り返りを通して、それぞれの保育者の個性や保育観を知る
…迷いを共有し、「私ならこうする」(I(アイ)メッセージ)で伝え合うことで、みんなで学び合う場へ
- 振り返りを行うことで、保育者一人一人がより客観的・多角的に子供の姿を捉えるようになり、子供理解が深まっていく
- 各保育者の試行錯誤が共有でき、子供主体の保育の促進にもつながる



(2) 更なる普及促進に向けて

子供主体の保育を進めていく上で、以下の3つのポイントを踏まえることが大切です。

① 活動後、子供との振り返りを

② 子供も保育者も体験しましょう

③ 保育者間コミュニケーション

(令和4年度報告書より)

加えて、次のポイントに留意しながら取り組むと効果的です。

① 保育者間でのクイックミーティングや振り返りを

- 複数担任の場合はもちろんのこと、非常勤職員や急きょサブに入る保育者とも、活動前にその日の活動のねらいや活動内容、子供への配慮を確認するクイックミーティングを。
- その日を振り返り、一言感想を非常勤職員等にも聞いてみることで、多角的な視点に。
- 振り返りの時間を捻出しましょう。子供の姿から見えた成長発達や保育の中の違和感など、的を絞って意図的に話してみてください。
- 各クラスや学年ごとなどに「〇時から5分だけ」と時間を決めると、習慣化しやすいです。



② 子供と一緒に保育を作っていく

- 保育者対子供たち多数という1:多数の関係から、1:1×人数の関係を心がけましょう。
- 決まった答えが返ってくる質問ではなく、様々な答えが返ってくるような、オープンクエスチョンを意識しましょう。
- 保育計画の引き算を。“大人が作り込む保育”から、子供たちの発想が加えられやすいように大人の手を減らしていきましょう。
- “子供に教える保育”から“子供をサポートする保育”へシフトすることで、自然に子供たちの主体的な姿が増えていきます。
- 子供の意見を聞きながら子供と一緒に保育を作っていきましょう。



③ 「まいっか」の匙加減に注意する

- 時間に追われる日々だけど、子供の心が動いている時は「まいっか。少し遅れても…」と割り切り、柔軟に計画を手放して寄り添うことも時にはあり。
- 毎回「まいっか」では寄り添い過ぎて“子供次第”になります。匙加減が大切。
- 子供たちの“今の姿”と保育者の“こうなってほしい”という意図や願いを天秤にかけて、バランスを見ましょう。
- “今”目の前の子供たちの最善を探究し続けていきましょう。



Ⅵ アドバイザー総括

アドバイザーは、一般社団法人new education LittleTree より派遣されました。

メインアドバイザー

■ 野村 直子 氏 (のむら なおこ) 一般社団法人new education LittleTree 代表

総括コメント

今年4人のアドバイザーが関わり、それぞれの視点や感性・願いを持ちながら、各園に寄り添い、対話を繰り返してきました。私たちにとっても学びの深い時間となり、改めて、振り返りや意見交換が大切であると実感しています。園内でも、全員が全く同じ価値観を持つことはありません。経験値や価値観が違うからこそ、様々な視点が存在します。それが不協和音となるか強みとなるかは、対話の質が関係していると思っています。

本事業では、普段見過ごしてしまうような小さな違和感や意見など、どんな立場の人でも声が挙げやすい場作りを心がけました。私たちが行なって来たのは、“アドバイス”というよりも“場づくり”だったと思います。お互いの言葉に耳を傾け、“今”目の前の子供たちにとっての最善を模索することで、普段話せないような保育観や想いが伝わってくるものです。この対話には、保育の“面白味”や“学び”が沢山詰まっていると思っています。

大人も子供も体験と対話を通して育つと考えています。保育の場が、大人も子供も育ち合いながら、一人一人が輝く場となることを願っています。

〈PROFILE〉

“子どもと自然”をキーワードに、国内外での保育と自然体験活動などの経験を重ねる。2010年より子どもと自然を繋げる保育の研修等で講師を務める。保育のコンサルティングや自然保育アドバイザーとして活動する傍ら、コミュニティスペース「辻堂ハウス」を運営。ファシリテーションスキルを活かし体験型の園内研修や講演会を通して、新しい保育・教育の視点を提案・提供している。著書「小さな木 あるがままに子育て」雷鳥社



■ 久保田 修平 氏 (くぼた しゅうへい)

総括コメント

今回、私は2つのことを学びました。1つは「保育者が楽しむことの重要性」です。保育同行後の振り返りで「今日、楽しかった」と保育者が嬉しそうに語る姿に出会いました。私は保育者が楽しむことは、子どもを尊重することと同じくらい大切だと考えています。なぜなら子どもも保育者もそれぞれが主体であり、主人公だからです。ぜひ、子供と一緒に楽しみながら、保育を探求してください。ときに迷いや葛藤もあるでしょう。でも、きっと保育の面白さに出会えるはず。もう1つは「自然はいつもそばにある」ということです。よく「都会は自然がない」「自然体験は難しい」と耳にします。しかし、今回の保育同行で、自然物が少ない公園でも、子供たちが存分に遊び込む姿がありました。子供たちは遊びを見つける天才です。もちろん、壮大な自然も素晴らしいです。ただ、足元の自然にも「なんだろう?」と見てみて下さい。きっと、新たな気付きが見えてくるはずです。

〈PROFILE〉

2015年から600日間で世界一周25カ国を訪問。各国で保育教育施設の視察やボランティアを行う(著書「600日25カ国夫婦世界一周 世界の子育て、保育を知る旅」)2022年から日本縦断も実施。これらの経験をふまえて「保育者が輝くことで、子どもが輝いていく」「正しい以上に、楽しい保育を大切に」をモットーに、日々保育実践・保育者支援を行う。オーロラジャーニー代表・保育士・大学院博士課程前期修業。



アドバイザー補佐

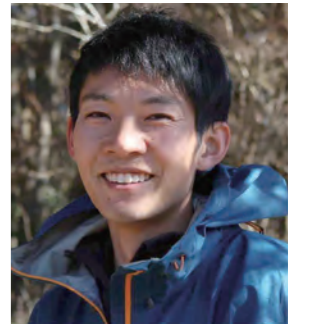
■ 藤江 雅也 氏 (ふじえ まさや)

総括コメント

「やってみよう」という好奇心や探求心こそが行動を起こす根源であると考えています。子供主体の保育は、その心を引き出すことが大切だと思います。今回、子供たちの姿からその心はすでに持っていることを再確認し、保育者の関わりによって、育ちの機会が多くも少なくもなると感じました。子供がどんなふう遊び、その後でどんな内面的思考を持ち、発展させていったのか。子供の姿を捉え、保育者が方向を示していくことが役割なのではと考えています。保育者も子供たち同様に一人の人であり、捉え方は様々です。「ああかもしれない、こうかもしれない」と、多角的な視点から捉えることで、自分には今まで見えてこなかった子供の姿が見えてくるかもしれません。目の前の子供たち一人ひとりを、多くの温かいまなざしで見守り続けていきたいものです。そして、自然環境は、神秘さや不思議さに溢れ、心が動く姿を捉えるのに最良の場であり、子供の気持ちに思いを馳せることは、様々な課題を解決する糸口になると気づきました。子供の姿を捉え、大人の想定を超えてくる姿に、保育者として楽しみ、考え、より良い育ちの機会が届けられるよう願っています。

〈PROFILE〉

保育と自然を深める旅でニュージーランドを巡り、帰国後は私立保育園にて園内研修を担当。また自然学校で保育部門のスタッフとして関わり、2021年に「こどもとしぜんのがっこうKoru Nature Design」として独立。現在、主催している「森のようちえんハレノヒアメノヒ」では、子どもたちと自然の中にある暮らしを大切にしながら過ごしている。



■ 元木 もも子 氏 (もとき ももこ)

総括コメント

アドバイザー補佐として関わらせて頂いた園は限られていましたが、それぞれの園で起きていることをアドバイザー同士で繰り返し対話を重ねて来ました。私にとってもこの時間はとても尊く、一つのことに対し様々な視点、多様な価値観で意見を交わすことはわくわくした気持ちになります。きっとそれと同じことが各園で「振り返り」として起きていたのではと思います。現場で奮闘する保育士の皆さんと関わっていく中で、子供たちに対し「こんなふう育てほしい」「あんな力を身に付けてほしい」という願いに溢れていることを改めて感じました。その願いがあるからこそ「今」子供たちの中で何が起きているのかを、時にはちょっと距離を取りながら見て感じるのが大事だということも知りました。子供主体の保育を叶える中に先生方の存在は欠かせません。子供たちの声を聞くことと同じくらい、先生方自身の「声」にも耳を傾けながらともに育ち会える場を紡がれていくことを願っています。

〈PROFILE〉

幼稚園教諭の経験を経て、NPO法人が運営する小規模認可保育園にて園長に就任。2020年よりコーチングを学び、米国CTI認定CPCCを取得。子どもたちの未来が輝くことを願い、「今」を生きる大人たちが自分らしい価値観を大事にできるようコーチ・保育者として、保育関係者や子育て中の方々に応援しながら伴走している。



令和6年3月発行

令和5年度
子供主体の保育普及促進事業 活動報告書

編集・発行
東京都福祉局子供・子育て支援部保育支援課
電話 03(5320)4130<直通>

登録番号(5)105



東京都福祉局子供・子育て支援部保育支援課